



# 大阪公立大学の概要

## ■大学の名称

大学名：大阪公立大学（Osaka Metropolitan University）

大学院名：大阪公立大学大学院（Osaka Metropolitan University, Graduate School）

## ■理事長・学長

公立大学法人大阪・理事長：西澤良記（にしざわ よしき）

大阪公立大学・学長(予定者)：辰巳砂昌弘（たつみさご まさひろ）

## ■開学予定日

2022年（令和4年）4月1日

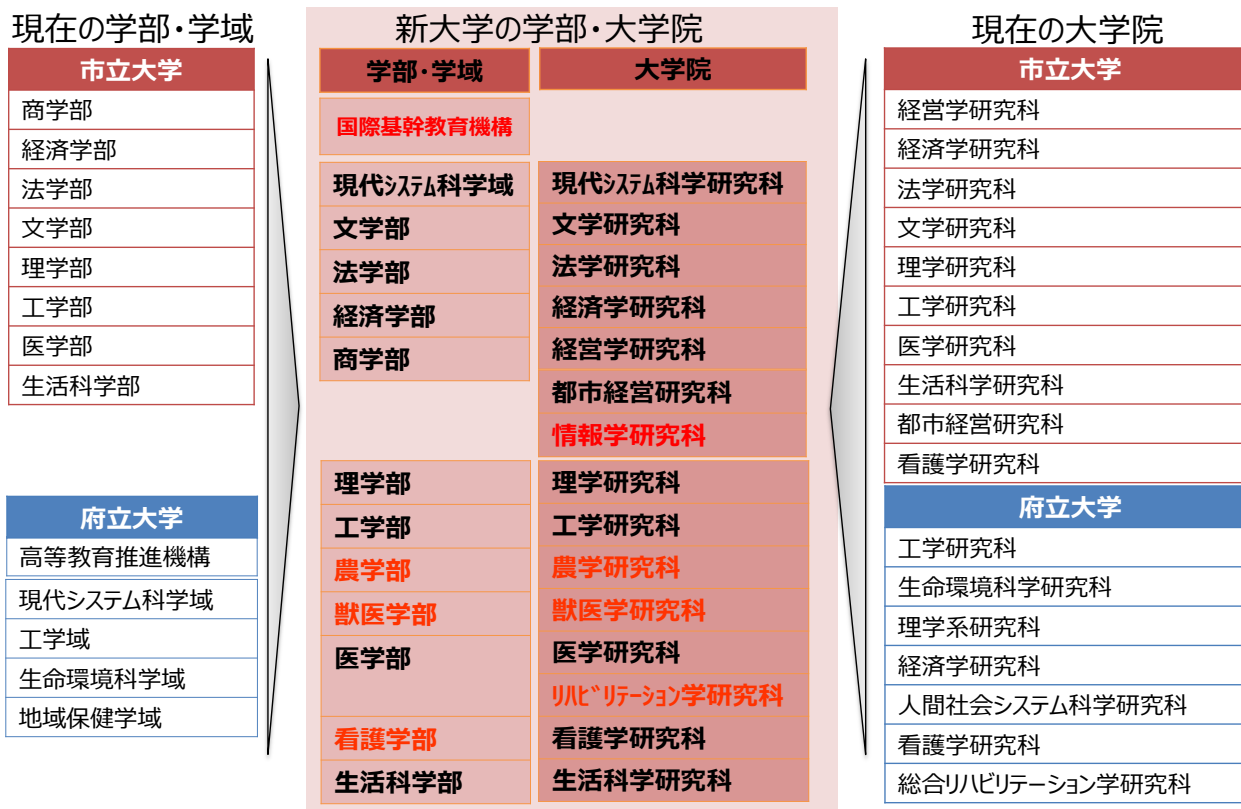
## ■大学の目的

○大阪公立大学は、学術文化の中心として真理を探究し、もって豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材を養成することを使命とし、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、その成果を社会に還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。（学則(案)第1条の記載事項）

○大阪公立大学大学院は、広い視野に立って、専門分野における学術の理論及び応用を教授研究し、高い倫理観を持った高度な専門職業人並びに学術の研究者及び教授者の育成を図り、もって文化の進展並びに地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。（大学院学則(案)第1条の記載事項）

## ■ 教育研究組織

学士課程：1学域・11学部 大学院課程：15研究科



## ■ 収容定員

大学 入学定員：2,848名、編入学定員61名

総収容定員：11,775名

大学院 入学定員：博士前期課程・修士課程・専門職学位課程 1,194名、  
博士後期課程・博士課程 271名

総収容定員：3,314名

## ■ 教職員数

専任教員数：1,206名

専任職員数：450名

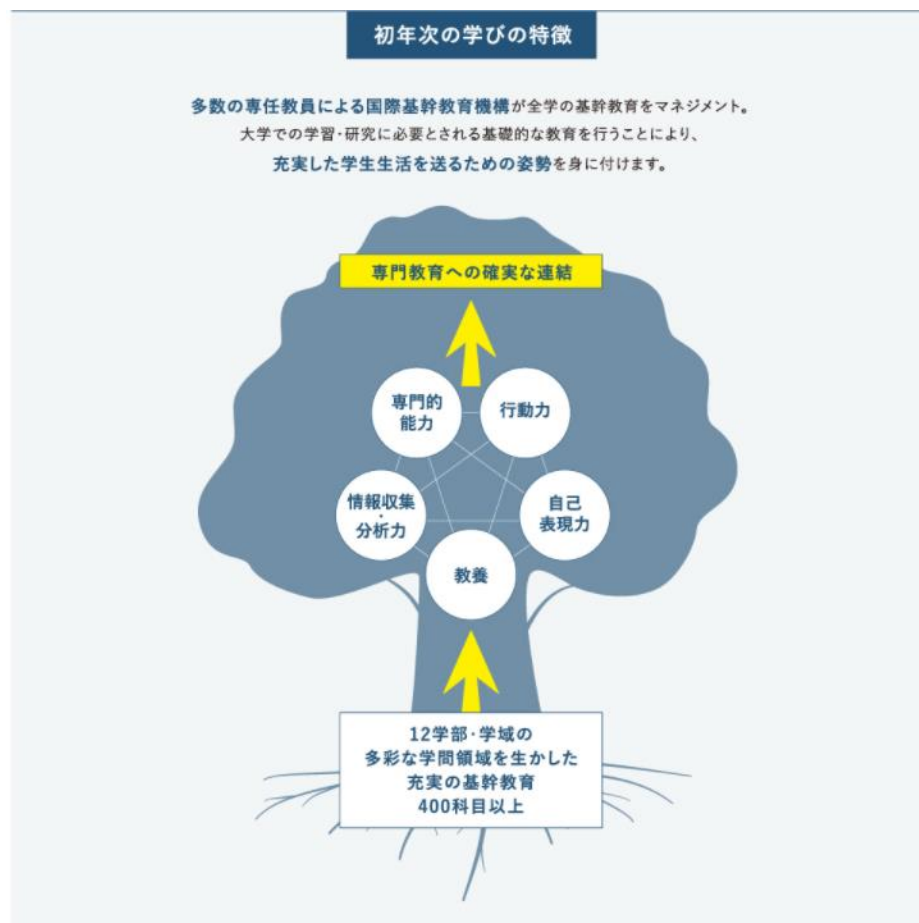
## ■ 基幹教育

・社会の高度化・複雑化に対応した高度な専門教育を支える質の高い基礎・教養教育を展開するため、また、学士課程及び大学院課程の全学生を対象にグローバル教育を実施し、学生の国際的素養を研鑽するための組織として、「国際基幹教育機構」を設置。

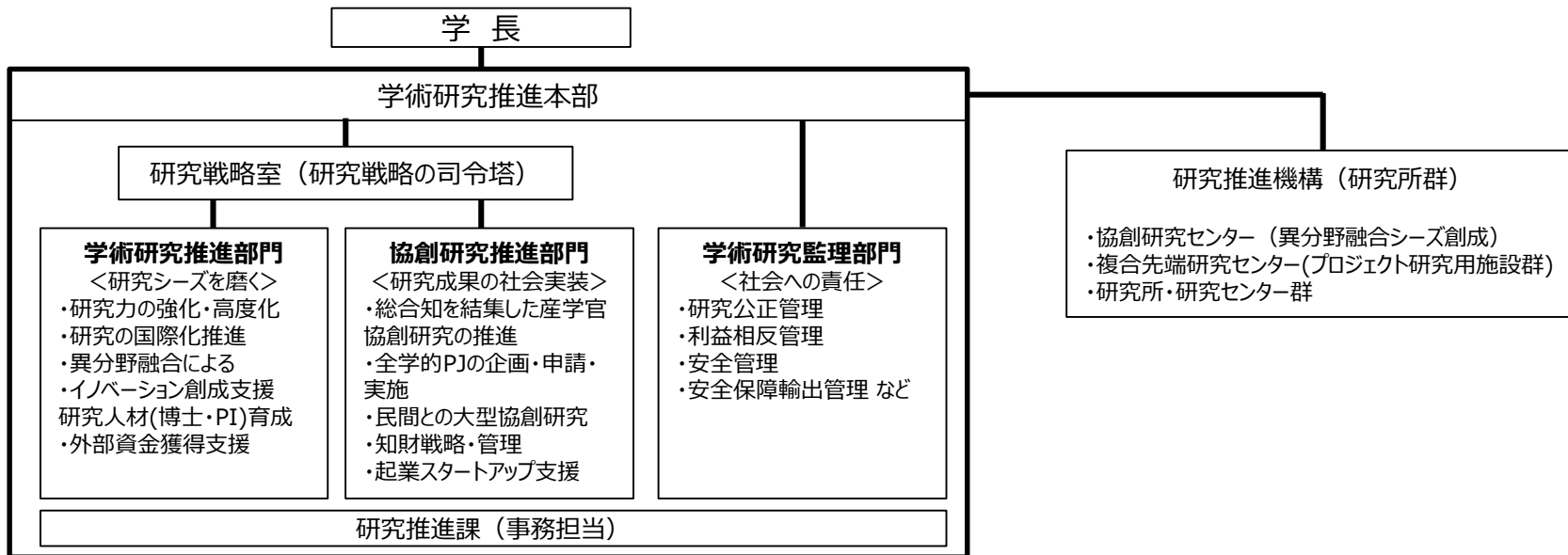
・基幹教育では、「総合教養科目」「初年次教育科目」「情報リテラシー科目」「外国語科目」「健康・スポーツ科学科目」「基礎教育科目」に分類し、体系的に配置する。

・「外国語科目」「英語科目」  
「読む、聞く、書く、話す」の4技能をCEFR B1以上にすることを目標に、1・2年次に少人数の必修科目“University English”を開設。

・「初年次教育科目」「初年次ゼミナール」  
1年生前期の全学必修科目として、全学部・学域から自分の興味のあるテーマを選んだ少人数の学生が研究を進めるもの。レポート作成やグループ討議を通して、自分で調べ、他の人の意見も取り入れて、考えをまとめて発表するという、自発的・能動的に学んでいく姿勢とスキルをスタートの段階で身に付ける。



## ■ 研究推進体制



## ■ 先端的研究の推進

・ 異分野融合研究  
医学・獣医学の連携による画期的診断治療法や感染症対策の確立など、2大学の研究の融合により、様々な研究を展開

・ 先端的研究  
人工光合成、創薬科学研究、全固体電池研究など、世界最先端の研究を更に推進



# キャンパス

## ■ キャンパス配置

- ・森之宮キャンパス（2025年4月開設予定）
- ・阿倍野キャンパス（看護学新棟を2025年4月供用開始予定）
- ・中百舌鳥キャンパス（工学新棟等を2024年4月供用開始予定）  
（2026年度以降に高専移転予定）
- ・杉本キャンパス（理学新棟を2024年4月供用開始予定）
- ・羽曳野キャンパス（2024年度に移転予定）
- ・りんくうキャンパス



## ■ 森之宮キャンパス（2025年4月開設予定）

- ・大阪の都市課題の解決や成長に貢献するために必要な機能を配置
- ・コンセプトは「知の森」
- ・約7,000人の教職員・学生が集うメインキャンパス
- ・2025年度 基幹教育、文学部、医学部リハビリテーション学科、生活科学部食栄養学科が移転（1期整備）
- 2027年度 民間活力を利用したキャンパス整備（1.5期整備）を実施し、情報学研究科が移転  
産学官共創リビングラボを整備予定



大阪城から東方向を展望



外装西面



メインファサード

## ■ イノベーション・アカデミー構想

・「都市シンクタンク機能」「技術インキュベーション機能」の充実、強化のため、「イノベーション・アカデミー構想 (ia) 」を推進

・SDGs、Society5.0、DX、脱炭素などに関連するさまざまな社会課題に対し、

「本質の解明～社会実装～価値創造」まで、多様なフェーズでの産学官の共創活動を推進

✓ ia構想を具現化するため、「産学官共創イノベーションエコシステム」を構築

✓ 各キャンパスの強みを活かし、大学全体に「産学官共創リビングラボ機能」を整備

・ソフト(産学官共創連携)・ハード(産学官共創拠点)の両面で、産学官共創イノベーションエコシステムを推進

・全キャンパスに「産学官共創リビングラボ」機能を整備

産学官共創リビングラボ機能：オープンイノベーションの拠点機能として、産学官が共創プロセスから実装と評価を重ね、現代社会複雑な社会課題の解決に挑む

## ■ 大阪国際感染症研究センター

・大阪府・大阪市として、大阪公立大学において、アカデミアの知を集結して、大阪の感染症対策を支える拠点形成をめざす

✓ 科学的エビデンスに基づく政策支援・提言機能

✓ 国際的な視野での研究・教育機能

・2021年度から、バーチャル体制でスタートしており、2022年度内に正式組織が発足予定

<産学官共創リビングラボ機能>

